

摂食嚥下支援チームの 活動報告

松山市民病院 摂食嚥下支援チーム
言語聴覚士 北村広志

チームメンバー

医師：リハビリ科、耳鼻科、歯科口腔外科

看護師 8名

管理栄養士、歯科衛生士、薬剤師

地域連携室、医事課

リハビリ 言語聴覚士

昨年度（2022年度）

- 専従言語聴覚士の配置
- 摂食嚥下支援カンファレンスの実施（毎週）
（摂食嚥下機能回復体制加算の算定要件）
- 摂食機能療法対象者の歯科ラウンドの実施

今年度（2023年度）

- 院外活動(昨年度より開始)
- 摂食嚥下評価フローチャートの改訂
 - 窒息リスクの入院時評価も含む

窒息：基本情報

年間死亡数 7989例（令和3年）
乳幼児と高齢者がほとんど
5分以内の異物除去
「バイスタンダー」（救急現場に居合わせた人）の判断が重要
基礎疾患：精神疾患、認知症、脳疾患
疾患名：嚥下障害、誤嚥性肺炎
状況：チョークサイン、チアノーゼ、呼吸停止、心停止



『窒息のリスク』に関して、院内での医療安全研修実施

院外活動

- 他病院や施設での摂食嚥下指導の機会が増えている
- 摂食嚥下（評価・訓練・食事介助）の指導ができる医師・看護師・STがいない臨床現場



- 一度の嚥下評価で今後の見通し、訓練のポイント、ゴール設定などを説明する必要あり



- 栄養管理室の協力で、**嚥下評価セット**の見直し